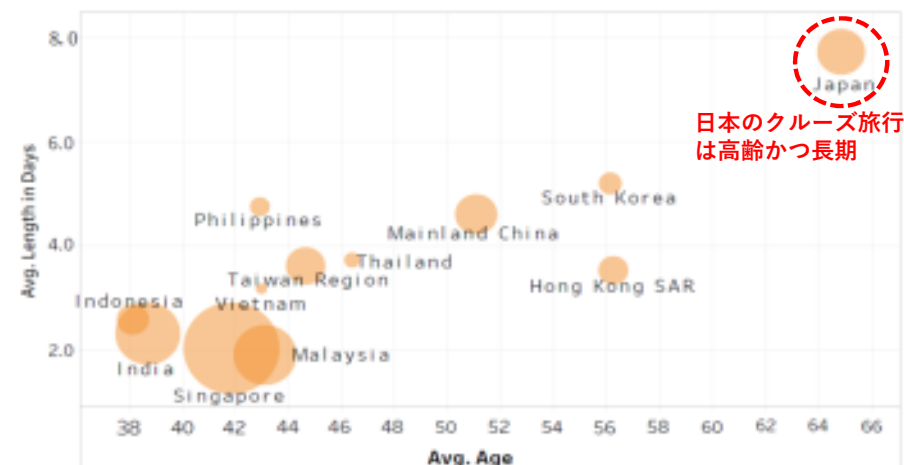


これまで

- 日本のクルーズ産業は、主として「現役引退後のシニア世代の楽しみ」としたラグジュアリ船を中心に普及・定着してきた。
- 世界のクルーズは、ラグジュアリ船だけでなく、プレミアム、カジュアル船の全世代型海洋レジャーとして成長して、クルーズ人口は3400万人を超えた。
- 日本では、プレミアムおよびカジュアルマーケットが大型の外国船の進出によって成長し、2019年にはクルーズ人口が35万人を達成。(世界の約1%)
- コロナ禍により日本のクルーズ人口は激減したが、22.4万人に回復。

クルーズ旅客の各国別の年代・期間の平均比較



これから

- 昨年12月の三井オーシャンフジ、本年7月の飛鳥IIIに加え、2028年にはディズニークルーズラインの新造船が日本籍船として登場。
- ラグジュアリおよびプレミアムクラスの日本船、プレミアムおよびカジュアルな外国船によって、ファミリー層、ヤングアダルト層等を含めた幅広いターゲットに訴求する商品造成や事業展開が期待され、「多様化のフェーズ」へ発展。
- さらなる創意工夫と課題克服のための連携・協力を促進し、業界全体の持続的な成長へとつなげるため、関係者が日本のクルーズ市場の将来像を共有することが重要。



飛鳥III



ディズニークルーズ(イメージ) ©Disney

日本クルーズ関係者の「旗印」として、以下の目標を掲げる。

2030年の日本人のクルーズ人口 100万人 ※2024年は22.4万人

約5倍!!

併せて、日本のクルーズ市場が健全で持続的な成長を遂げる観点から、以下の参考指標を設定する。

- 指標①: 日本人の**新規クルーズ旅客数**が着実に増加していること
- 指標②: 日本発着クルーズにおける**外国人旅客数**も着実に増加していること



- ✓ クルーズ人口の増加を通じた我が国**クルーズ産業の発展**、地域の経済波及効果による**観光立国への貢献**
- ✓ クルーズ産業を中心とした新たな**海事クラスターの育成**(海運、造船、船員、旅行業、港湾・海事産業の魅力度の向上)
- ✓ クルーズ体験を通じた**海事思想の普及**(海に関心を持ち、理解を深め、愛情をもつ)